

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立大阪南視覚支援学校
取り組む課題	D 生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障がい児における教育環境整備 ・ 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 ・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の 中期的目標	<p>幼児・児童・生徒の障がいの多様化・重複化に対応し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援を行う。【R4 重複障がいプロジェクトチームでの検討を開始→R5 支援方を共有し検証→R6 幼～高で本格運用】</p>
事業目標	<p>【背景】近年、全国的に視覚支援学校においては児童生徒数の減少と在籍者の重度重複化・多様化がみられ、本校も同様で、視覚障がいに加え重度の自閉児、強度行動障害、肢体不自由、医療的ケアなどを有する児童等が増加。その対応のため、昨年度から校内PTを発足、その充実のため本事業を実施する。</p> <p>【事業目標と内容】視覚障がいを伴う重複障がい児の教育環境の整備と教育内容の充実を図る。</p> <p>1. 環境の整備</p> <p>① 触覚的環境認知ができる校舎環境の整備（1階エントランスにおける環境整備）⇒校内において点字ブロックに加え、柱に触覚的なアクセントを設置する他、床面も柱の周りのみアクセントをつけ、重複障がい児自身が自分が現在居る場所を把握しやすくする。アクセントを視覚的に認知しやすい色で分けることで、弱視児の環境把握にも役立つ。</p> <p>② 触察しやすい畑の整備（2階屋上にある畑の整備）⇒視覚障がいを伴う重複障がい児にとって、従来の畑では、長時間腰を曲げるなど、触察による観察や活動は姿勢維持が困難である。そのため、新たに高さのある大型プランター型の畑を整備し、触察しやすい環境を整え教育活動を充実させる。</p> <p>③ 視覚障がいを伴う重複障がい児のスノーズレンスペースの整備⇒視覚障がいを伴う重複障がい児がパニックになった際などに使用する常設のクールダウンスペースをスノーズレン等も活用して新たに整備する。触覚的・聴覚的・視覚的に落ち着ける環境が常にあることで、心を落ち着かせる心地よい環境を作り、精神的な安定をサポートする。</p> <p>2. 視覚障がいを伴う重複障がい児についての授業研究及び専門性向上</p> <p>当該分野の研究者を講師として学校に招き研修を行うとともに、日頃の授業について研究を行う。また、より細やかに実態把握を行うため視覚重複障がい児における必要なアセスメント用具（検査器具等）を整備する。</p>
整備する 設備・物 品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階エントランスの柱の周りに触覚的に区別しやすい素材を設置 ・ 2階屋上の畑の整備 ・ スノーズレンスペースの設置 ・ 視覚障がいを伴う重複障がい児に関する研修の実施、アセスメント用具の整備

取組みの概要	取組内容	前年度	<ul style="list-style-type: none"> ・重複障がいのある在籍児が増加する中で、支援充実を図るために、新たに首席を中心とした学校全体の組織として、重複障がい教育プロジェクトチームを立ち上げ、年6回話し合いを実施した。 ・各学部の実態把握と情報共有を行った。 ・重複児でも分かりやすい環境の設定を行った。（1階靴箱横に触覚的なアクセントの設置、1階エントランスの柱4本の名称の決定、教室名掲示を白黒反転UDフォント教科書体に統一等）
		初年度	<ul style="list-style-type: none"> ・全校組織として、重複障がい教育プロジェクトチームの話し合いを年6回実施。 ・各学部の実態把握と情報共有を行い、一覧表にまとめ周知（5～6月） ・視覚障がいを伴う重複障がい児におけるアセスメント形態の検討及び発達指標等の検討（年間） ・各学部より抽出して、支援方を共有し、検証していく（5～12月） ・1階エントランスの柱及び床面の素材検討、畑の設計検討、アセスメント用具の検討、クールダウンの部屋の整備検討（4～5月） ・1階エントランスの柱の素材工事、2階屋上の畑整備工事、スヌーズレンスペース設置工事（8月） ・1階エントランス、2階屋上の畑、スヌーズレンスペースの周知と利用説明、実態検証（9月～3月） ・初年度の取り組み内容における指導実践公開【校内規模】（年度中）
		2年め	<ul style="list-style-type: none"> ・重複障がいプロジェクトチームで作成した、支援方策に基づいて幼稚部から高等部まで運用実施。（年間） ・視覚障がい教育を専門とする大学教授による職員向け講演の実施（年度中） ・1階エントランスにおける重複児の歩行及び定位実態把握調査（4月～7月） ・2階屋上の畑を活用した、重複児の触察環境の変化の把握調査（4月～7月） ・1階エントランス及び2階屋上の畑、スヌーズレンスペース活用における指導実践を紹介（9月～3月） ・アセスメント用具の研修と研究及び実態把握での活用（年間） ・指導実践の外部公開【近畿規模】（年度中）
		3年め	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいを伴う重複障がい児における指導計画の明確化と共有実態の調査、検証（年間） ・視覚障がい教育を専門とする大学教授による職員向け講演の実施（年度中） ・外部における指導実践の研究発表【全国規模】（年度中）
	取組みの 主担・実 施者	<p>主 担：首席を中心とした全校組織「重複障がい教育プロジェクトチーム」に、指導教諭、各学部担当者が入り、研究を進めていく。また、企画調整会議において、校長、教頭、各部主事等に随時報告を行い、多くの教員と連携しながら進めていく。</p> <p>実施者：全教職員</p>	
成果の検証方法 と評価指標	初年度	<p>①学校教育自己診断（児童・生徒・学生）における「学校に行くのがたのしいかどうか」を95%以上にする。（R2:79% R3:89% R4:92%）</p> <p>②校内において、1階エントランスの柱の素材や2階の畑、スヌーズレンスペースの整備によって、視覚障がいを伴う重複障がい児の教育環境が改善されたかの職員アンケートを行い、肯定的評価を70%以上得るとともに、初年度の取り組み内容における実践紹介を校内において公開、紹介する。</p>	
	2年め	<p>①学校教育自己診断の質問項目に新たに「学校は視覚障がい者にとって安全に整備されているか」の項目を追加し、（児童・生徒・学生）70%以上の肯定的意見を得る。</p> <p>②2年めの取組内容に対する職員評価アンケートを行い、肯定的意見で70%以上を得るとともに、近畿地区の研修会等において実践を公開し、取組み事例を全体共有していく。</p>	

	3 年 め	<p>①前年に引き続き、学校教育自己診断の質問項目に新たに「学校は視覚障がい者にとって安全に整備されているか」の項目を追加し、(児童・生徒・学生)80%以上の肯定的意見を得る。</p> <p>②全国規模の研究大会で、重複障がい教育プロジェクトチームの実践発表を行い、肯定的外部評価を得る。</p>
--	-------------	--